

日本医師アマチュア無線連盟会報

No.66

年頭の御挨拶

MARS 会長 JA7AOM 及川忠人(岩手県)

新年明けましておめでとうございます。日本医師アマチュア無線連盟(MARS)会員の諸先生におかれましては健やかに新年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。

今年は子(ね)の年であり干支(えと)の第1番目最初の年となりますが、歴史を振り返りますとこの子の年には大きな変革があることが記されております。特に政治社会経済情勢の不安定な環境下にある年明けとなりましたが、丁度72年前の昭和11年(1936年)は子の年であり、陸軍皇道派青年将校1400名の挙兵による内大臣斎藤実蔵相と高橋是清氏等の殺害、永田町一帯を占拠して国家改造を要求した有名な所謂2・26事件が勃発し、東京市に戒厳令が布告され、その後昭和天皇が反乱軍との位置づけと近衛兵によっても断固排除するという方向から2月29日に反乱軍が帰順に至った年が子の年であったのです。また昭和23年(1948年)の6月28日には福井大地震があり福井市が全滅に近い被害を受け何と死者3769人・全壊3万6千戸の大被害が記録されています。小生が中学生の時代には昭和35年

(1960年)の6月23日には新安保条約批准発効となりましたが、岸内閣の退陣があり、全学連の国会突入等の安保闘争で樺美智子さんが犠牲になったり、大きな時代の変革の出来事として記憶に鮮烈に残っています。

このような様々な事柄が振り返られる子の年であるが、今年は予想はつきませんが、衆議院解散・総選挙は実施される年となることは間違いのないようです。そのような中で医療崩壊を如何に食い止めるかが、我々地域に存在し地域住民から支えられて来た私立地域病院および地域医療機関・診療所の最重要課題になっております。

小生は日本医師アマチュア無線連盟会長に就任してから2年がすぎ去り、早くも3年目になるうとしております。誠に恥ずかしいことですが、会長として活動らしい活動を何もしていないという現実にぶつかります。そのような中で、今年の総会は北海道で開催することに昨年の総会で内定して、その準備を進めております。北海道は春が遅いこともあり、5月下旬5月24日(土)25日(日)に千歳飛行場の近くに総会会場を確保して、北海道総会を開催し、総会の翌日は道南の観

光を計画して楽しい内容を目指して準備を進めておりますことをご報告申し上げます。総会特別講演は現在交渉中ではありますが、大災害等に伴う課題について取り上げて共に学ぶ機会を持ちたいと考えております。

さて医師不足・看護師不足に端を発した一連の医療崩壊は特に北東北・北海道で顕在化する様相を呈し我々の地域における現場も例外ではありません。医師が退職した後には後任の医師が着任することがほとんど無く、次第に地域医療そのものの機能の減弱が目立つような現象が多くなって参りました。また岩手県では県立病院の医師不足により、小児科、産科のみならず内科、外科の医師不足が深刻になってきております。したがって地域中核病院の機能低下を周辺の診療所および開業医の先生方が支えるという状況が一般化し、さらに重症例では救急車により沿岸部から県央の盛岡の中核的病院に搬送される事例が増えてきております。その救急車に患者さんの搬送医として小児科医等がついて専門施設に送ることが日常になっているという驚くべき事実があります。このような予想もできなかった医師不足をどのように解決するか、医科大学医学部の定員を10-15名増加させる案が進んでいますが即効性の効果は期待できず、その発揮のためには約10年近い年月が必要であり、この社会現象への解決の道としては程遠いと思います。

さて日本医師アマチュア無線連盟の役割とは何であるかを意識して、活動の準備をする必要があると思われれます。それらは特に大災害初動期の電話や通信手段の確保の困難な時に、重要な役割を果たすことが最も現実

的ではないかと思われれます。特に13年前の阪神淡路大震災の時の経験等から、大災害の危機管理が必要な時期に如何に的確な情報の共有化の確保に貢献できるかが大きな課題として直面しているのではないのでしょうか。携帯電話機の普及により、通信手段がアマチュア無線より電話が重要であると思われれておりますが、最も重要なものは突然に大災害が起こって、その時にあまり時間経過を経ない時間内に情報の共有化がなされることが最も必要であり、また重要であると思うからであります。

このような厳しい情勢の中で、我々日本医師アマチュア無線連盟(MARS)は様々な活動を通して「安心と安全」を地域住民に与えることを目指すべきであるとおもいます。そのためにはまず優先してアマチュア無線の在り方と課題への関心をMARS会員自身が高める努力を継続して頂くことを期待するものであります。それがMARS活動の出発点となれることを心から願っています。

末筆になりますが幕末の佐藤一斉先生は言志晩録13条で「一燈を掲げて暗夜を行く。暗夜を憂うこと勿かれ。ただ一燈を頼め。」と述べています。この厳しい世相の中で、「真理を拠り所」として進みなさいと時代を超えて教え諭しているように思われれます。我々のMARSの活動も「その一燈」を大切に各地の地域住民への「災害時における安心の提供と信頼の確保」にその活動の目標を掲げて進んで参りたいと思います。MARS会員各位のご支援とご鞭撻をお願い申しあげMARS会長としての年頭の挨拶に替える次第です。

第 32 回 MARS 総会（北海道総会）の御案内

日時：平成 20 年 5 月 24 日（土）～25 日（日）

会場：ANA クラウンプラザホテル千歳（旧千歳全日空ホテル）

〒066-8637 北海道千歳市北栄 2-2-1

TEL:0123-22-2311 FAX:0123-27-5500

車をご利用の場合：新千歳空港から車で 15 分

道央自動車道千歳 I.C から車で 7 分

電車をご利用の場合：JR 千歳駅から徒歩で 7 分

行事日程：

MARS 総会 講演会 懇親会 5 月 24 日（土） 同上ホテル

開場、受付 16 時 30 分より

MARS 総会 17 時 15 分

講演会 18 時 00 分～19 時 00 分

「講師」交渉中

懇親会 19 時 00 分～21 時 00 分

エクスカージョン 5 月 25 日（日）

ホテル発 午前 8 時 00 分（高速道路）

洞爺湖遊覧船・昭和新山（昼食）・火山科学館等

白老かに御殿・白老アイヌ民族博物館・札幌ビール恵庭工場

新千歳空港着 16 時 30 分

MARS 会員都道府県別分類

(J A 1) 19局				(J A 5) 3局			
東京都	JA1FF	JA1BOW	JF1SXY	香川県	なし		
	JK1AIN	JL1BGP	JP1HIS	徳島県	JA5GPJ	JA5POS	
	<u>JH7WKU</u>	<u>JR9FQO</u>		愛媛県	なし		
神奈川県	JH1IAA			高知県	JH5KAJ		
埼玉県	JR1CDJ	JR1JIC	JE1MMK	(J A 6) 5局			
	JL1LRJ			福岡県	JA6BMB	JA6RQK	JH6IBM
茨城県	J11VAH				JG6DAO		
群馬県	JA1KXT	JR1SJD		大分県	なし		
千葉県	JM1BIX			熊本県	なし		
栃木県	JF1EJS	JO1RTV		宮崎県	なし		
山梨県	なし			鹿児島県	なし		
(J A 2) 8局				佐賀県	JR6EZJ		
愛知県	JA2DQH	JH2QBQ	JR2AXV	長崎県	なし		
	JG2XEJ			沖縄県	なし		
静岡県	JA2BIV	JE2ANG	JE2KKI	(J A 7) 22局			
	JO2DBR			青森県	JA7VAB	JR7BWP	
岐阜県	なし			秋田県	JH7MSL	JE7MMC	
三重県	なし			岩手県	JA7AOM	JA7PPA	JH7IIR
(J A 3) 33局					JH70LB	JH7XGQ	JR7QWT
京都府	JA3ASU	JH3SQM	JH3SQN		JE7EDF	JG7CRJ	
	JH3SRC	JR3HFS	JR3HG Y	山形県	なし		
	JR3JJQ	JF3ITN	JF3NXJ	宮城県	JA7EVM	JH7CAI	JH7EQW
	<u>JK1QLR</u>				JH7QFA	JR7CAD	JM7USW
大阪府	JA3BQT	JA3LDH	JA3WKF	福島県	JA7FHH	JA7RTM	JE7GFM
	JH3AEF	JH3MWR	JR3KBI		JJ7BRL		
	JR3LJI	JR3MCI	JE3RZA	(J A 8) 4局			
	JF3EKP	JJ3MIG	JL3SIK		JA8FOH	JA8JDQ	JA8RSJ
滋賀県	JF3PMG	大塚博紀			J18MLV		
兵庫県	JA3XED	JH3GOB		(J A 9) 3局			
奈良県	なし			富山県	なし		
和歌山県	JH3TCC	JR3SIK	JF3JON	石川県	なし		
	J13CIN	JJ3KUL	JM3BCQ	福井県	JA9SN	JH9HDD	JE9RWF
	JN3ASW			(J A 0) 4局			
(J A 4) 5局				新潟県	JA0CEP	JA0HGN	JH0LME
岡山県	JH4TIC	JE4EWM(exJA5LDZ)			JE0BWH		
	JG4JFW			長野県	なし		
広島県	JH4DPL	JH4UYB					
鳥取県	なし						
島根県	なし						
山口県	なし						

_____は他エリアからの移動局

計106局 (2008年3月現在)

JR1VUF 河野一男先生 ご逝去

de JA1KXT 相田信男(群馬県)

「オシロイバナ。妻が幼い頃を思い出すと、大事にしています。今朝の MARS-Net は8名の参加。久方ぶりによいコンディションでした。残暑がぶり返しています。ご自愛下さい。’07.9.5。」それが最後の、でもVUFさんにはご覧いただけずに終わった葉書だ。

* * *

あれは(2007年)9月5日、朝は MARS Net に参加して、その晩だった。奥様からお電話いただいていた、JR1VUF 河野先生のご逝去を知った。早速 JH3AEF 東條先生にお電話したり、メールでご連絡できる OM たちにはメールを送ったり、また郵便を出したり、このことは予測がついていたのにも拘らず、人の死に際してはいつもおたおた、ばたばたとしてしまう。そんな風に反省しながら、やはりじたばたしてしまった。やがて、先生は「9月4日に腎盂癌のために逝去された。80歳であった。」というお葉書を奥様からいただいた。事実は紛れもなく、そんな具合だった。

* * *

VUF さんに初めてお会いしたのが、一体何時の、どの場所だったのか、記憶は定かではない。ずっと昔から、あの大きな体の先生のそばでパーティのお酒など飲んでいたように覚えている。VUF さんもお酒がお好きだったはずだ。いや、お酒に限らず、いろいろなことのお好きな方だった。私よりもずっと詳しくご存知の方々がおられるはずだと思うのだけれども、VUF さんはボートを持っておられて東京湾で(いやそれ以外にもか?)遊んでおられた。カメラにも凝



っておられて、そう言えば高知での(だったよねー?)MARS 総会の折に VUF さんをご持参だった Pentax MZ-3 を、後に私自身も使うようになった。あのカメラのデジカメ版が K10D なんだけれども、MZ-3 から外したレンズを K10D で使って、撮って、それがお送りしていた絵葉書の写真でしたと、お伝え損なってしまった。あのカメラを愛用されてお出かけだったのでしょね、と思い出す。リタイアされてからは、かなりあちこちにご旅行されていたのを、水曜朝の on air meeting でよく伺ったものだ。それは団体ツアーをご利用になったり、お一人でふらっと訪れた街でいっぱい引っかけたりと(伺った)、ずいぶん楽しんでおられた。一度は、私からしたらとても羨ましいと申し上げたら、「KXT は若いのだから、未だ働いていて当たり前。私はもう十分に仕事した後なのだ」と諭されてしまった。今はとても懐かしいお叱りの一言だ。

VUF さんは専門分野の教科書を書いておられて、その時期は MARS Net もお休みだった。そんなに仕事に打ち込んじゃう人がいるのだと、感心したものだ。韓国に外科の授業にもお出

かけだったのではなかったらうか。専門家の立場からお書きいただいた MARS News の記事があり、大作だった(「体内異物(1~4)」)、MARS News33、35~37、平成7年)。

でも、私が存じ上げている VUF さんの何よりの好物は、ハムだった。MARS Net への参加、MARS News への記事投稿、MARS の各種グラウンドミーティングへの出席、バヌアツへのペディション、またお宅にあっても、秋葉原にときに出かけられては自作の数々、アンテナの研究、リタイアされてからも再開された一泊のお仕事の後に早朝から出ておいでの移動運用、そして、なによりも AHφBB によるサイパンからの多バンド運用(これ関係の MARS News の記事は多数)、数え切れないほどの活躍を残された、ハム大好きな OM でおられた。

* * *

あれは6月10日、雨降りの日だった。新宿で待ち合わせた JH3AEF さんと VUF さんのお宅にお見舞いに伺った。VUF さんは、もはや粗方の器具が片付けられて、でもシャックだと明確に分かるお部屋で、ベッドの上から私たちを歓待して下さったが、いただいた鮎の塩焼きのおいしかったこと。そのお心遣いもさることながら、痛みのコントロールを私たちの来訪時間に合わせておいたとお聞きして、私自身は返事の言葉申し上げようもなかった。

「MARS のみなさんに、お世話になりましたと、どうぞよろしく伝えてください」とおっしゃった後に、「私がいなくなつてからでいいよ」と付け加えられたので、私はうつつまってしまった。

今となっては、ついに、MARS のみなさんにお伝えするしかありません、ね。

* * *

その訪問時に、枕元にはたまたま私がお送りした庭に咲いた黄色いバラを撮った葉書を飾っておいてくださったのを拝見して、ちょっと感激だった。加えて奥様からお礼状をいただき、AEF さんとお持ちした「ジュースもゼリーも大層喜んで頂戴した」と伺ってすっかり嬉しくなつてしまい、これを機に思い立って、一週間に一〜二度、お見舞いの葉書をお出しすることにした。ログ(無線業務日誌)に、「今日 JR1VUF に葉書」と記しながら、槿、山百合、マンダラゲ、百日紅、カサブランカ、瓢箪、再び百日紅と、写真をお送りし続け、そして最後のオシロイバナは、VUF さんにはご覧いただけなかった。

奥様からお葉書で「お花の写真ありがとうございます。遺言によりお花の写真と沢山の QSL カードを着て旅立ちました」といただいた。『QSL カードを着て』とは、AEF さんとお訪ねした日、VUF さんご自身の口からも伺ったご計画だった。本当にハムがお好きだったのだろうか。と、あのちょっと怖い顔(じゃありませんでしたか?)の、でもお笑いになるととても楽しそうでおられた VUF さんを、改めて思い出す。とても懐かしくて、胸が一杯になる。

さよなら、JR1VUF 河野一男先生、私たちこそ、大変お世話になりました。心こめて vy 73。



災害医療におけるアマチュア無線の役割

第 13 回日本集団災害医学会教育講演要旨 (筑波市 筑波国際会議場) 2008-02-11

社団法人岩手郡医師会会長 JA7AOM 及川 忠人

今回、はからずも小生が所属する東八幡平病院が約 10 年前に近隣の岩手山が噴火する可能性があることが報道され、その対応として地元旧松尾村のアマチュア無線家有志が集まり、松尾ネットを形成致しました。少しでも地域防災体制を民間から支援する立場で活動を行い、やがてそれがインターネット(岩手県医師会)に掲載されて知るところとなり、今回の同上学会における教育講演の招待につながりました。

教育講演の要旨は小生のアマチュア無線歴をはじめに紹介して無線通信の災害事故における役割を概説し、岩手郡医師会災害事故救急対策要綱の課題を紹介致しました。ついて、小生が医師として現場で修業を始めた年に起こった雫石・全日空機墜落事故におけるアマチュア無線の活動を述べ、次に阪神淡路大震災における非常通信の課題について特に元 MARS 会長の故大門茂行先生の MARS ニュースに掲載された内容について紹介致しました。また先述した岩手山火山対策防災訓練におけるアマチュア無線の参加の内容について概略を説明して、その課題について述べました。加えて昨年の東條先生が中心になって行いました MARS 総会の内容について簡単に振り返り、約 45 分の教育講演を無事終わることができました。今回この教育講演の内容を概説して、はなはだ不十分な内容であることは承知の上、今後 MARS の活動を吟味する上で、災害医療に

におけるアマチュア無線の役割を見直す一助になれば望外の喜びであります。



さて、小生はラジオ少年でありました。小学校 4 年生のころから鉱石ラジオを組み立てることに興味を覚え、遠いモスクワ放送の電波を受信して感激したことは今でも懐かしい思い出であります。またアマチュア無線の機械を自作することを支援してくれた父親の存在は今になってみるとただ感謝あるのみであります。昭和 35 年 3 月の末に国立仙台電波高校で電話アマチュア無線技師国家試験を受験し 5 月に免許を受けたときの感激は忘れられません。それから無線局の申請書類が残っておりますが、807 シングルの自作送信機と 9R42J 型の高一中二の

受信機を自作して申請し、さらに自宅の緯度を二万五千分の一の地図から算出したり、その相談相手は高校教諭であった父親でありました。

またその後、同年の5月24日にはチリ地震津波があり、郷里大船渡市では54名の犠牲者を出す惨事となり、同級生の中には天井を破り、助かった人も居ました。また親戚の家が津波で被害を受けたためそれを助けるために向かった同級生もその犠牲者の中に含まれるという惨事でした。それまでは地震があつて、その後津波が来るのが常識であつたのですが、地震がなくても津波が来るという前代未聞の津波でありました。また地球の裏とも云うべきチリで起こった大地震がその原因と分かつて驚いた記憶が今でも残っております。

大学時代に下宿先で細々とアマチュア無線を楽しみましたが、母校にアマチュア無線クラブを作ろうとの話がでて、その時に貴重な出会いが与えられました。故岩動隆一先生(JA7DF)という地元のアマチュア無線家は知らない人は居ないという大先輩でした。学生として下宿先から交信するときに「周波数をうごかすな！」と怒鳴られびっくりした思い出があります。その後岩動先生とはパケット通信やロータリーハムそしてこのMARSに入会をするきっかけを作って頂いた大先輩であり、さらに後述する雫石・墜落事故の時に大活躍したことが今でも印象的です。ほんとうに素晴らしい先輩と巡り合わせることが出来たことに今でも感謝しております。学生時代に使用した自作の送受信機は小生の「青春のシンボル」として手元に残しており自作しか当時アマチュア無線が現実のものにならなかった時代が懐かしく思い出されます。

さて無線通信の災害事故での役割を振り返ってみたいと思います。特に火山災害につい

ては、若い時代にイタリアのローマを訪ねた時にナポリ湾望むカンパニア地方にあった古代都市ポンペイの遺跡はとても印象的です。西暦79年にヴェスビオス火山の大噴火で埋没して、18世紀以来の発掘でローマ時代当時の生活様式、美術工芸などを知る史跡になったわけでありました。現地の博物館を訪れると、噴火による硫化化合物が原因で呼吸困難を来して死亡した「人の化石」が二体ほど化石として陳列されており、何とも不思議で不気味な感じが致しました。その火山噴火が一瞬の時間に郊外のリゾート都市を埋没させた歴史は自然災害の規模と人類の歴史やさらにローマ時代の文化水準の高さを予測させるに十分でありました。

さて日本海海戦における日本の勝利はバルチック艦隊を撃滅した東郷元帥の率いる連合艦隊の活躍が有名であります。1902年には日英同盟締結のおかげで軍艦「敷島」に国産の無線機が取り付けられて、日本の艦艇無線通信が始められたことが記録されております。有名な信濃丸からの「敵艦見ユ」との電信発信が日本海海戦の連合艦隊勝利を決定づけたといっても過言ではないと思います。司馬遼太郎氏の「坂の上の雲」に秋山真之中将の「敵艦見ユトノ警報ニ接シ、連合艦隊ハ直ニ出動、之ヲ撃滅セントス、本日天気晴朗ナレドモ浪高シ」の電文は秋山真之中将のものであり、これらの快挙は電信通信技術を取り入れた海軍の見識の高さゆえの勝利であり、むしろ太平洋戦争末期における日本の通信技術の立ち遅れと比較すると興味深いものがある。八木アンテナのような発明が日本では利用されず、むしろイギリスがナチスドイツ空軍への本土防衛に使用したことがレーダーの活用の歴史を振り返る時不思議

な気がしてならない。

さてもう一つ災難事故で取り残してはならない事故は1912年4月のタイタニック号の遭難であります。数年前の映画でヒットして有名になりましたが、この時に CQD(Come Quick Danger),SOS(Save Our Souls)をタイタニック号から発信したわけでした。しかし無線到着範囲に数隻の船舶が航行中であつたが、無線通信機を備えていなかったのので、遭難の発生を知ることが出来なかったのです。タイタニック号の遭難を傍受していたアメリカのアマチュア無線家がおりましたが、後にRCA社の会長になる当時21歳のサーノフ氏が遭難の第1報を米国に伝えました。

また1923年(大正12年)9月1日の関東大震災の時にも無線通信が大活躍しております。横浜港に停泊中の船舶より大阪通信局に通報して大阪からの援助物資の送付を受けたことは有名であります。また福島県原町送信所(1921年完成)からアメリカに向けて地震の惨状を送信したために、その内容がサンフランシスコで傍受されて新聞に載るとともに欧州に転送され、アメリカおよび欧州からの膨大な救援物資が届いたと記録されております。

さて災害の分類および大災害の定義等の概説はここでは省略したい。災害の自然災害での死亡者数を検討すると13年前の阪神大震災が6398名の多数を占めるほか、2001年9月11日のアメリカ同時多発テロの7700名等が目立つが、我々地元の岩手郡医師会では災害事故救急医療対策要綱を策定して、災害に備える体制をとっている。しかしながら岩手郡医師会の守備範囲は広範であり、1市3町1村の広範な範囲の救急事故体制の準備を進めることは容易なことではないが、これまでの設置要綱

の要点を述べたがその詳細は省略するが、その中で「連絡」の項目にアマチュア無線が入れられており、アマチュア無線による緊急非常無線連絡網の活用が表記され、昨今の情勢の中で各地域のアマチュア無線家のネットワークづくりを、進めている現状を報告した。一方には緊急時の携帯無線機の現実的な使用方法やモールス符号の概略等も説明を加えた。このような活動をふりかえりますと、災害事故救急対策活動マニュアルの策定、緊急連絡網の検討整備、防災活動に関する啓発活動を活発化、岩手郡内の緊急連絡網の整備等についての課題があることを述べた。

小生が昭和46年岩手医大医学部を卒業してその年の7月30日に全日空機と自衛隊機との衝突による墜石全日空機墜落事故がおこり、その際に活躍されたJA7DF(故岩動隆一先生)の活躍を紹介した。小生も医師支援隊の一員として、遺体収容修復作業に従事したが、いまでもこの事故以上の規模の事故には遭遇していないこと等の感想とこの事故におけるアマチュア無線の活動の実態を岩手県医師会史の記録を参考に述べた。

さて昨年のMARS総会においても阪神淡路大震災におけるアマチュア無線の対応や現場の医師会からの被害者ならびに患者さんについての対応については多くの学ぶことができました。この発表に於いてはMARS元会長でありました故大門茂行先生の阪神淡路大震災における種々の活動と見解について引用して、災害時のアマチュア無線の活動の重要性について述べる事が出来ました。阪神淡路大震災の教訓として列挙したことは、災害医療情報ネットワークの必要性、災害時の初動体制の確立特にVIP相互の情報緊急通信システムの具体的

構築の必要性を強調し、さらに災害現場でのトリアージの重要性や後方搬送受け入れ体制の確保、災害に強い病院の構築と支援体制の整備等があげられました。

ついで岩手山噴火対応の無線通信訓練について報告した。特に旧松尾村在住のアマチュア無線家を中心にネットが形成され非常時連絡網の構築がなされ、さらに毎週1回の定時通信が開始されたことがその出発点になっている。これらのネットは次第に近隣町村に広がり認め、各町村における噴火対策防災訓練にはアマチュア無線家として、さらに病院の員として参加することになった。合計で9回の火山噴火防災訓練に参加したことになるが、旧西根町での防災訓練への参加の実態を報告しあわせて現場での救急救護への支援通信が試行的にアマチュア無線を用いて実施された。これまでの防災訓練への参加はほとんどJARL岩手支部の有志に依存していて地域での温度差が激しいものがあった。しかし現場での救急救護への支援通信が行われ、地元の沢山のアマチュア無線クラブの支援を受けて、電話通信のみではなく、画像通信についての通信試行も行われ、一般住民の興味をそそる結果となった。



発動機を用いて訓練通信に参加

訓練終了後東八幡平病院に参加者が集まり簡

単な反省会を持つことが出来て、情報連絡通信を実施する上での課題、ヘリコプター搬送予定の変更等を察知できずに予定通り訓練が変更されたこと、山麓のアマチュア無線家が協力して画像通信(動画を含む)を行いその有用性を確認して新たな展開へと繋がることになった。



JE7BGN局によるATV,SSTVのset up

これらの経験を通して大災害時の災害事故救急対策活動は郡市医師会にとっても重要な課題を浮き彫りにしたと思う。大災害初動期における情報伝達体制を如何に確立するかが最も大きな課題であり、アマチュア無線を利用することが重要であり、地域によっては医師会緊急連絡網としてUHFおよびVHFを利用したレピーターの利用方法を検討し、その地域別の設置の計画が必要と思われる。

丁度岩手山が噴火する可能性が高いとの臨時火山情報が出されて約10年が経過するが岩手山の噴火は遠く約300年前のことであり、その時の噴火の跡地は焼き走りとして広大な溶岩流を残し観光地の一つになっている。如何に当時の噴火の規模が大きかったかを予想させるに十分であります。

私達はアマチュア無線という恵まれた趣味を通して防災訓練に参加して、一般地域住民と

共に岩手山火山噴火防災訓練に参加してアマチュア無線の有効性についての検討を重ねて参りました。この地域の歴史と文化を通して多くのことを学ぶことができましたことはもちろん、火山の地質学的歴史の長さから人の命を対比すると、その時間軸のスケールの違いにまた驚きを感じます。安全安心の誰もが住み続けることのできる地域社会を構築することは、現在の日本における最も重要な喫緊の課題であると思えます。

私が所属する財団法人みちのく愛隣協会は先代の伊崎理事長が牧師の子息であったことから、「愛隣」という文字が入っております。これはキリスト教の新約聖書「ルカによる福音書」にある例え話に「良きサマリア人」と呼ばれる有名なたとえ話があります。半殺しにあったある人を、祭司やレビ人は知らないふりして通り過ぎるわけですが、サマリア人は介抱して宿屋につれていき親切な行いをしたわけでありました。その話からその追はぎにあった人の隣人とは誰かとの

質問をイエスは与え、それに対してその助けた人であることを法律の専門家が答え、「行ってあなたも同じようにしなさい」とイエスが言われるという話の内容です。災害はいつでもどこで発生するか誰もわかりませんが、この愛隣つまり「隣人を愛しなさい」という意味は、よく振り返りますと災害時の様々な対応を行う時に最もふさわしい考え方を支える分かりやすい物語ではないかと思えます。安全と安心が地域に広がる活動を共に目指したいと心から願い、つたない講演要旨に替える次第です。



残雪の岩手山

試行錯誤

JH3AEF 東條 純一(大阪府)

東大阪市の市街地に住む私にとって ham を楽しむ環境は日増しに窮屈になってきています。直近にマンションのはしりが建ったのはもう 30 年以上も昔のことでした。これで short pass の EU が極端に悪くなりました。local 局から QSY してもらった L 型鋼で組み上げた自慢の 10m のタワーはとたんにみすぼらしくなりました。私も若かったのでしょう。それならあのビルを越してやろうと二階建ての屋上に、当時まだ珍し

かった 22m の crank up tower を建てました。周辺も町工場であったり、駐車場であったり、空き地もあり何はばかることなく tower を上げ降ろしし、ANT もあれこれ載せ変えながら 15 年は過ごせたでしょうか。次は東にマンションがとみるみる、工場や駐車場が更地にかわり、次々と戸建て住宅が建ち、long pass の EU, AF 方向には高層マンションが、最近、息の根を止めよとばかりに carib, NA 方向にご立派なマンシ

オンが建ってしまいました。tower に上って作業をするにもあちこちのマンションから「あの爺さんようやるな」と覗き下ろされているようで楽しくありません。戸建て住宅からはいつ何時 interference の claim がこないとも限りません。それでも先住権は我が方にありと、最近 tower も二代目に変え、しぶとく ham life を楽しんでいます。

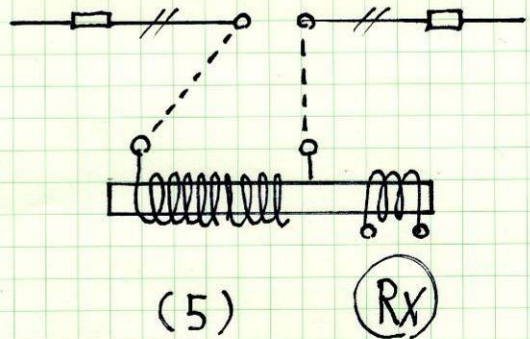
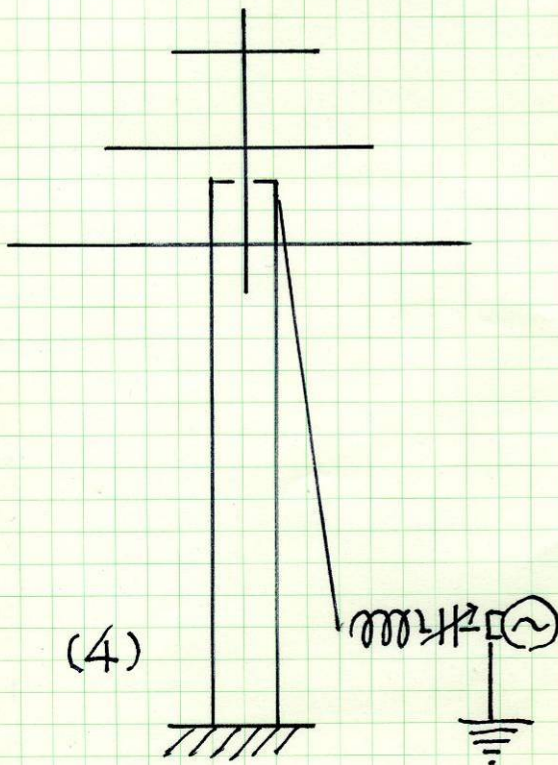
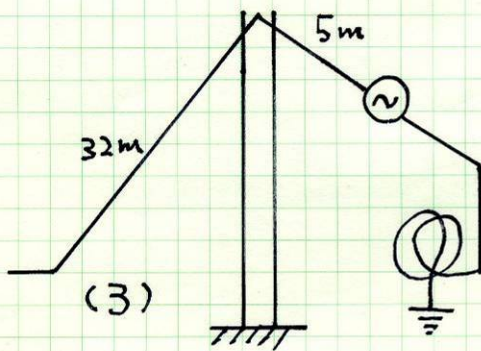
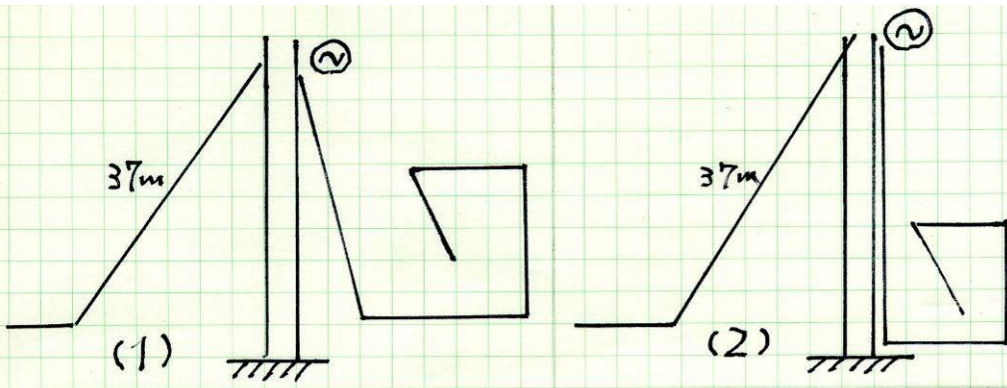
DXCC もそれなりに進み、5band,6band と来ますと top band もと欲が出るのが ham というものなのでしょうか。私には OM さんの「そんな場所で 160m は無理むり」との嘲笑が聞こえてくるようになりません。それでも何とか齧ってみようと悪あがきするのも ham の DNA なのでしょう。prologue ばかり長くて本論は実にお粗末で恥ずかしい限りです。お許しを請うというよりは皆様の suggestion を心から期待するところです。

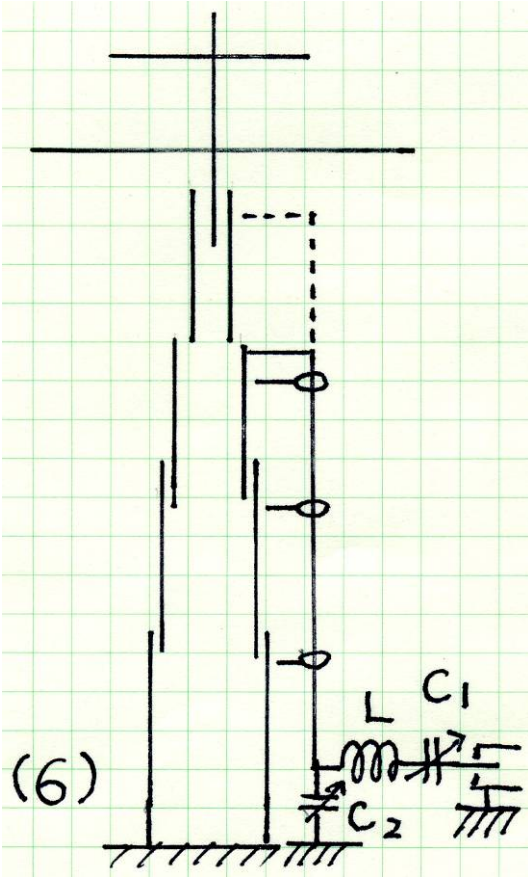
ANT といえば DP、ところが 1.8MHz 波長 160m となりますと 1/2 λ でも 80m です。両翼に 40m ずつ水平に張る！！私は今流行の超高層の twin tower を見るたびに一人にんまりしています。対地効果も充分に保てるし、何かの機会に向こうの窓からこっちの窓までとは全く少年の空想の世界です。それでも似たようなことをやってみようと、給電点を tower で持ち上げてみました。IV ANT です。短縮率を掛けて片方が 37m。一方の element は先端を 7m 程折り曲げ何とか格好がついています。もう一方の element が上手くいきません、15m 以上の部分を折り曲げおろまげ努力はしましたが全く IV ANT の体をなしません図(1)。給電点の開角は 30 度前後と尖がっています。おそらく給電点の impedance は極端に低い値を示しているでしょう。SWR は再三の cut and try に

もかかわらず 3 を下回ることはできませんでした。ただ、昨年 4 月、我々の学会(日本医学会総会)の交歓事業で記念局 8J3GAJMC を大阪城ホールで開局した際、水平 DP を折り曲げることなく張ることができました。立ち木を利用した 160m band の DP は壮観で、給電点の高さは充分では無いものの impedance も当然の約 70Ω に落ち着きましたが、cut and try の際、50cm も 60cm もの調整でようやく目的の結果が出せたことに当惑しながら 160m の波長を再認識させられました。

IV が駄目なら sloper にと、展開することの出来ない片方の element を tower に沿って下方に引き下ろして張ってみました。80m の場合は片 element を tower にそって引き下ろし、tower との間隔を調整(50cm 前後)することにより、SWR も理想的に下がりましたが、160m になりますとどうしてもうまくいきません。おそらく tower に沿う element 長が不足なのでしょう図(2)。そこでかろうじて展開している片方の element の給電点から先端方向へ 5m のところを最高点に持ち上げ、給電点は反対側に折り返して下げ、反対側 element で引っ張ってみました図(3)。そしてこの対側 element の先端は earth しました。給電点は低いものの impedance, SWR とも理想的な値に調整でき、この折り曲げスローパーは使える状態に出来上がりました。丁度国内の contest の日であり多くの JA 局が on air している中、試験運用の結果、何とか使えることが確認できました。しかし、noise level が高く、返ってくる report も貧弱でとても満足できるものでなくすぐに降ろしてしまいました。

160m の ANT となると今まで培ってきた知識 + α が必要らしいことに気付いて ham 関係の





雑誌をひもといてみました。そして JA の多くの 160m 愛好家の standard なるものが見えてきました。一つは tower そのものの利用、そしてもう一つは 80mDP の、それも 80,75mDXman 御用達の短縮型 rotatable DP の改造利用であることが見えてきました。

tower の利用者の多くは shunt drive 法を使用しているようです図(6)。shunt とは tower と平行に設置した導線のことで、その長さとも tower との間隔で matching をとる手法です。shunt の起始部は tower の top からとする局もあり、一段下がったところからとする局もあり各様です。C1 は多くの局が使用していますが、L、C2 については各局の個別の条件により使われない場合も多いようでした。この手法は tower の高さ、tower に載っている ANT(多くは大型

八木)の種類、shunt 線の長さ、tower と shunt 線の間隔など多種の条件が互いに関係し、なかなか複雑な様子です。更に面倒なことに、この shunt 線と tower との間隔を一定に固定するため、tower から何本もの spacer を出さなければならないという難題もあります。また crank up tower の場合、tower の earth 機能の不確実さも結果に悪影響を与えることは間違いありません。

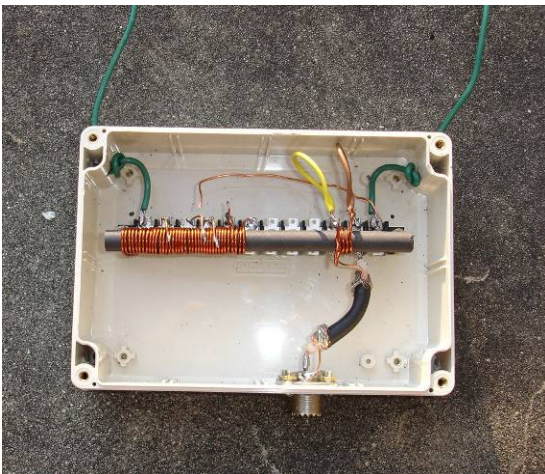
そこで、あまり神経質に考えず得意の片 element 引き下ろし法と同様に tower の頂上から DP に使う element 線を引き下ろしてしっかり張り、tower 基部で element 線と tower 間を 60cm としてみました。element 線はその先、エアーダックス coil(60φ, 0.8mmφ, 疎巻き、古いもので規格不詳)3T, エアーバリコン(250pF 程度とみえる、耐圧もかなりありそうな送信機用? 規格不詳)を介して 50Ω 同軸の芯線に接続、shield 側は ANT 基部で earth に接続という形にしました図(4)。調整はさほど困難も無く VC を 20%程抜いたところで 50Ω、SWR も理想的に落とすことができました。tower の高さは full up でなく約 16~7m、引き降ろし element の長さも tower に添う長さといういいかげんさです。VC の出し入れと tower 基部での element~tower 間の距離の調整により、驚くほど簡単に調整は完了しました。調整には KURANISHI BR-200 の ANT analyser を使っていますが、私のレベルでは何等不都合を感じたことはありません。

さて、この tower drive ANT を早速使用してみたのですが、その noise のひどいのは今更ながら驚きました。常時 S7~8、ひどい時には +10db にもなり、深夜だけは 3~4 になっているという状態です。とてもか細い over seas を捕ら

えられる代物ではないようです(勿論繁華なご当地だからということもあるのでしょうか)。そのような中、かろうじて聞こえる UA9 を呼んでみました。Report は 599!! 何となんと飛ぶことは飛んでくれているようでした。

しかしこれではひどすぎる。そこで多くの局が受信専用で 3.5MHz 用 rotatable DP 改を使うという意味が理解できてきました。160m には如何にも短すぎる感がしないでもありませんが、tower ANT で聞くよりは幾らかでもましなのだろうと期待を胸に改造を決意しました。

改造作業はそれほど複雑なことではありません。75,80m に同調している element を 160m に共振させれば良いのです。そのためには rotatable DP の両エレメントの間に coil を巻き足すことになります。文献を参考に約 10cm 長、10mm φ のフェライトバーに 1.2mm φ PEW 銅線 37T を密巻きにし両 element の間に結線しました。更に同じ銅線を 3T 同じフェライトバーに巻き coupling して 50Ω の同軸に接続しました図(5)。impedance はフェライトバー上にある coupling coil の位置を移動することにより 20~120Ω あるいはそれ以上の範囲で調整可能で、周波数も 35T+α で調整可能でした(写真)。



フェライトバーはジャンク箱にあった古い受信機用のものを利用しましたが、今でも生産はされており、通販で容易に入手可能です。先達の中には amidon ring を使用している方もありますが、線巻きと調整に手こずるなどの記述がみられ、バーに巻く方が遥かに作業が簡単だろうと感じました。

さて使ってみてビックリ、tower ANT との差は歴然でした。ANT の実効長が短いということはあるにしても S/N の改善には目を見張るものがありました。condx の良い日なら panpacific や asia ならと希望がわいてきました。とにかく隣近所とはいえ contact 可能な状態にたどり着いたのですから!! 市街の密集地に住まう ham のたわごととお聞き流してください。いまは tower の下の方に降ろし固定状態で使用していますので、上の mast まで持ち上げ、回転させるようになれば、更にもう一段、受信力が up するのではと微かな期待を抱いています。

現在の抱負は現状の element 長を少しでも長く出来ないかということです。element 基部からはしご feeder のように並行に二線を下ろしてくればまた noise が増えるでしょうか。波が載るほどの長さは下ろせませんが、少しでも長い element で受けてみたい、その一心です。更に、relay を使って本来の 75,80m でも使えるように手を加えなければなりません。

有難いことにだいぶ暖かくなり作業も日ごと楽になってきました。もう少し試行錯誤しなければならぬところがありそうです。皆様のご助言を心からお待ちいたします。

シャモニー滞在でロッククライミング

JA1FF 国府田 守雄(東京都)

8月11日、土曜日午前中の仕事を終わって、21時56分の夜行便で出発。ジュネーブ9時過ぎ着。迎えの車で、シャモニーへ。昼前に着いて、エギュードミデーイに向かうロープウェイの駅に近い、15室の、シャーレ風小さなホテル、ウスタレの部屋に、中心街から少し離れているので、大きな芝生の庭と、野外の25mプールがある。荷物を解き、昼飯。ホテルのオーナーのご主人が菓子職人で、色々な菓子が並べてある。お茶とお菓子で済ませる。少し休んでから、天気が良いので、水着に着替えて、プールで泳ぐ。水は冷たく、外に出られない。夕方、スポーツ道具屋のスネルスポーツでガイドと落ち合い、明日からの日程の打ち合わせ。夜は、道路に椅子テーブルを並べた食堂で食事。朝夕は長袖、フリースが必要。

13日、少し早めに朝食を済ませて、シャモニーの谷を下り、道路脇の駐車場に車を止め、ツールドモンブランのハイキング道に入る。木立の間を抜け、途中、滝のそばを通り過ぎ、2時間近い登り、さらにハイキング道から右に分かれて、岩屑の歩きにくい登りをフウフウ言って、岩山の取り付きに。フレーゼ・ボアチェという、300mくらい、8ピッチのロッククライミングコースを登る。私は現地ガイドのフレッドと組み、家内は、もう一人の女性客と、日本人ガイドと組む。靴をクライミングシューズに履き替え、水だけ持ってロッククライミングにとりかかる。途中まで登ると、遠くのボンノムのコルの山裾に、バルム的小屋が望めた。昔ツールドモンブランを歩いたときに、昼飯を食べたなどと話をしながら、終了

点の山頂につく。天気もよく、景色最高！途中で、登ってくる家内の組とすれ違い、懸垂下降を繰り返して、出発点に戻る。家内の組はロープが絡んで、何時までも降りてこない。フレッドは早く行って、ビールでも飲んでいようというが、ハイキングコースの川の辺の少し涼しい所まで下り、ゆっくりと昼寝をする。二回もロープが絡んだと言いながら、3人が降りてきた。すっかりのどが渴いてしまい、街まで我慢ができず、途中、滝のほとりの小屋で冷たいビール！とチーズクレープ。すきっ腹で、少し酔っ払い、疲れも有って、よろよると車の所まで辿り着く。夜は、スネルスポーツの神田さんの自宅でバーベキューをご馳走になる。山小屋風の大きなお宅のベランダで、12、3人、賑やかに食事。意外に虫が居ないのにびっくり。

14日、プラからゴンドラに乗り、プレジューール、さらにリフトを乗り継いで、モンブラン山群の展望台であるアンデックスに。ラックブランに向かうハイキングコースを暫くたどり、残雪を横切り、左に分かれて、赤い針峰群に向かう。



アンデックス

赤い針峰群からモンブランを



ウーン 滑る！

どこにでもクライミングのコースがあるのだが、今年が一番右端の壁にコースを取る。靴などを背負って登るのだが、現地ガイドのフレッドが、もりお！と言って手を出す。水を持ってくれるのかと思って、ボトルを出すと、ザックごと、全部背負ってくれるという。空身で登れる、ラッキー。家内は、ズルイズルイと喚く。大きな手掛り、足の置き場の無い、滑りそうな岩肌で、恐ろしい思いをしながら5ピッチで終了点。休むと、シャモニーの谷を隔てた対岸に、モンブラン山群、ドリュエその他の3000m超4000mの雪を被った岩山が見渡せる。遥か下には、シャモニーの谷間の建物が豆粒のように見える。ザックを背負い、岩壁の裏の方に周り、ゆるい岩場を下り、雪渓を横切ってアンデックスに戻る。リフト、ゴンドラと乗り継いで、下る。冬は全部がスキーコースになると言う。プラの村に下りて、ビールで遅い昼食。夜は、イタリアのクールマイユールにモンブラントンネルを抜けて出かける。ガイド祭りがあり、大変な人出。街で買い物などをし

てから、前もって予約した小さなレストランに戻り、本当のイタリアンで夕食。地元の人に来る店だそうで、キノコのリゾット、ポレンタ、小牛肉の薄切キノコソースなど旨い。お腹一杯で、デザートは、ピッコロ！と小さなアイスクリームにもらう。かなり飲んだワインなど飲み物込みで、一人49ユーロは、良かったと思う。

15日、シャモニーのガイド祭りで、午前中は休み。スーパーでパンなどを買い込んで、部屋で昼飯。プールで泳いで、昼寝でもと思っていたら、電話で、近くの岩場、所謂練習用ゲレンデでクライミングをしに行こうということになった。あわてて着替え、出発。車で少し行ってから、草原を20分ほど歩く。小さな岩場には、日本で見るように、たくさんのロープが簾のように下がっている。大勢の老若男女、子供までが、トップロープ、又は2ピッチくらいのクライミングをしている。空いている所を捜して登る。家内たちは、現地ガイド、私は交代して日本人ガイドである。



つぎつぎに登ってくる

終了点まで行かない少し手前で終了し、懸垂で降りる。家内たちは現地ガイドと上をトラバースして、離れた所に懸垂下降してくる。ホテルに戻り、街で待ち合わせをして、夕食に出かける。今日は韓国焼肉屋だと言う。殆ど客なし。ウーロンハイを飲みたかったのだが、ジンロなし。脂気の無い肉の薄切りを、焼いて食う。油が滴り

落ちる、カルビを想像していたのに。久しぶりに、ご飯を取る。

16日、雨の予報もあり、3000m以上は雪ということで、エギユウドミデイの壁を登る予定は駄目、他の岩場も多分駄目ということで、クライミングは休みにする。スイスに行こうということで、車をとばす。マルチーニの街に着き、シャガール展をやっているの、美術館に向かう。朝も少し早いので、道路も駐車場も空いている。シャガール展を見てさらに、地下にクラシックカーの常設博物館があるので、それも楽しみ、街の真ん中のピッツア屋で昼飯。夜は、日本人ガイドが自分のアパートで食事を作るということで、シャモニーに帰着してから、スーパーと一緒に出かける。雨のぱらぱら降る中を、アパートに向かう。パラグライダーの着地点になっているという草地に面した部屋で、饅頭の煮込みなどもご馳走になる。

17日、シャモニー、スイスなどは雨という予報なので、モンブラントネルを抜けてイタリアに。クールマイユールを通り過ぎ、アオスタ谷を下る。ナソーの村で山道に入り、一車線、急カーブ、急坂を登る。行き止まりの小さな広場に車が2台停まっている。そこから、細い木の間の滑りやすい山道を歩く。イタリアのお兄さんの二人づれが前後して歩いている。お前はDrだから、今日はDr, Jimmyという岩を登るとフレッドが言う。案内図を見せてもらうと、かなり難度の高い岩場である。俺が何としても登らせるから安心して付いて来い！まあ何日も一緒に登ったから、私の力は十分承知で、出来ない所には連れてこないと思っていた。登り口に着くと、エーという感じで、立った岩壁の先が見えないほどに繋がっている。10ピッチ、約400mの大岩壁である。やはり、靴など荷物は全部背負っ

てくれるというので、私はフレッドと組む。



イタリア アオスタの谷を見おろして
ロッククライミング中間点で家内と

家内は、自分の分は自分で背負っている。そのくらいのハンディーは仕方があるまい。ざらざらした岩肌で、フリクションは効くが、大きな手足を乗せる出っ張りは無い。終了点のさらに上に、極めて難しい2ピッチが残っているが、私はそこまでで止める。横に回り、岩の中の細い踏み跡を車の所まで下る。家内たちは、残りの2ピッチで苦勞しているらしく、なかなか降りてこない。途中の見晴らしの良い所で、腰を下ろし、休みながら待つ。ポカポカと良い天気で眠くなり、ひっくりかえってとろっとする。ナソーの村の中で、やっとバーを見付けるが、食事は無し。ラザニヤなどを一寸暖めて、ビールで流し込む。モンブラントネルは渋滞、それでも日本の高速道路ほどではない。シャモニーに帰り着き、フレッドと別れの挨拶をするが、また来年も来るだろうねと念を押されてしまう。最後の日なので、以前にも行った事のある、川のそばの満席のピッツア屋に行く。店内で見知った日本人ガイドがお客を連れてきているのに出会う。

18日、朝飯を終わってジュネーブに向かう。夏休みも終わりである。前の週は天気が悪く、皆苦勞したようだが、この週は何とかなっていて嬉しい。

エジプト、ナイルの旅

JH2QBQ 丸山 暢(三重県)

昨年12月クリスマスクルーズで神戸から名古屋港まで飛鳥に乗る機会がありました、紀伊半島、伊良湖岬を巡航しましたが、いつもヨットで苦労している所を、いとも簡単にのんびりと通過してしまいあらためて客船の良さを痛感いたしました。家内とも相談して今年にはヨットは少しお休みして客船の旅を楽しもうと言うことになりました。

以前から家内が一度ピラミットを見てみたいと言っており、私はクルーズを楽しみたいと言う二人の意見を満たしてくれる旅があり早速申し込み、最低人員8名で成立し出かける事となりました。

british airwayのビジネスクラスでしたのでサービスも良く、一眠りしたらロンドンに着いていました。ホテルに一泊して大英博物館へ、此処ではロゼッタストーン、ミイラ館等主にエジプトに関係のある場所を見学しました。

も中腰で歩き、しばらく足ががくがくしていました。スフィンクスの前で記念撮影をして午後は考古学博物館を見学、ツタンカーメンの黄金のマスクを始め玉座その他の秘宝が展示されていました。



クフ王のピラミッド



カフラー王のピラミッド

夜遅くカイロのコンラッズホテルに着き、あくる日はギザの三大ピラミットを見て、特にクフ王のピラミットは中まで入るのに狭い階段を60m



スフィンクス

あくる日は朝早くエジプト航空でカイロからルクソールへ、カルナック神殿、ルクソール神殿を見学、巨大な建造物が3000年以上も前に作られたと聞いてびっくり、ルクソール神殿前の2本あったオベリスクの1本はパリのコンコルド広場に寄付されているそうです。



カルナック神殿の列柱群

いよいよ今日から4日間のナイル川クルーズの始まりです、乗船するのは昨年進水したばかりのロイヤルリリー号、デッキにはプール、ジャグジーまで備えた豪華船です、日本人は私達だけ8人でした。

途中で小船に乗りルクソール西岸を訪れる。王家の谷ではラムセス3世、9世、ツタンカーメンのお墓を見学、ツタンカーメンのミイラも此処に眠っていました。先日考古学博物館で見た数々の埋蔵品がこんなに狭いお墓に入っていたとは信じられませんでした。

数年前に襲撃事件があり多数の死者を出したハトシエプト女王の葬祭殿に着くころにはエジプトらしい陽射しとなり、真っ青な空と葬祭殿の白とのコントラストがとても印象に残りました。エジプトに来ての最大の感動はこの後訪れた王妃の谷のネフェルタリの墓でした。ラムセス2世の最愛の妻であり、かのクレオパトラと並び賞されるほどの美人だったそうです。現在修復中

で見学出来ない墓ですが、私達8人だけが10分間の制限付きで許可されたそうです。中の壁画の美しいこと、色も殆ど原色のままで残され3000年の月日を感じさせませんでした。本当にエジプトに来た甲斐がありました。

夜はロイヤルリリー号船上にてガラベイヤパーティー、それぞれが好みの民族衣装を着て参加します。私達も写真の様な衣装を身にまといゲームをしたり踊りを踊ったりして楽しい一夜を過ごしました。



ガラベイヤパーティー

明るく日は馬車に乗ってエドフのホルス神殿へ、高さ36mの立派な塔門には巨大なレリーフが描かれ3000年以上もたっているとは思われません。一度船に戻り船長室訪問、船長さんはヌビア人で民族衣装を着て胡坐をかいて操縦していました。

午後からはナイル川をアスワンから46km下った町にあるコムオンボ神殿を見学、ナイルの突き出た丘の上に立つ立派な神殿で、クルーズ船からもよくみえワニの神様のために立てられたものでワニのミイラや、ナイルの深さを測るナイロメーター等の遺跡がありました。又医療器具のレリーフもあり中々興味深く見学しました。

夜は船内でベリーダンスやタントーラと言っ

て大きなスカートを履いた男性がくるくると回りながらスカートを上げたり下げたりしながら踊る珍しいショーがありました。

今日はアスワン観光、切かけのオベリスクを見てあの巨大なオベリスクがどうやって作られたかが分かりました。その後フィラエ島のイシス神殿に行く。アスワンハイダムが出来たとき水没する運命だったのを此処に移転されたものです。

午後からは待ちに待ったファルーカセILING、12m位のガブリグです。ティラーは直径15cmもある丸太でこれを抱えるようにしてヌビア人が操縦します。結構上り性能が良いのには吃驚しました。一時間ばかりのんびりとナイル川のセーリングを楽しみました。

夜は地元のヌビアンショーを楽しむ。

ルクソールからアスワンへの4日間乗ったロイヤルリリー号とも今日でお別れ、アスワンハイダムを見に行く。海のようなナセル湖にびっくり、ここでサハラ砂漠の砂を拾い空港へ、アブシンベル行きの飛行機は私達と他4名だけでした。

アブシンベル神殿は日本人に最も人気のある所だそうで、多くの日本人に行き会いました。殆どの人がバスでコンボイを組んで前後を自動小銃を持った警官達に守られての移動だそうです、まだまだ治安の悪い所があるようです。

夜は神殿前で音と光のショーがありましたが、日本人が多かったせいで日本語の説明で助かりました。ショーが終わる頃にはさすが砂漠の気候ぐんと冷えてきました、昼間はTシャツでしたが長袖のトレーナーにジャンパーでも寒い位でした。

明るく日は早起きして朝日鑑賞に行く。この日のサンライズは6時32分でしたが朝日に照り映えるアブシンベル神殿はとてもおごそかでした。

た。



アブシンベル神殿

ここからアスワンまではわれわれだけのチャーター機、乗り換えてカイロへ、久しぶりの中華料理に大満足。その後モハメドアリモスクへ、非常に立派なモスクで少しだけイスラムについて勉強しました。午後はハンハリーリ市場でショッピング、非常に活気がありあらゆる物を売っています。ここで水タバコを体験、香水瓶、アンク(命の鍵というお守り)等おみやげを買う。今日から一泊二日のオアシスの旅です。大型バスに我々8名と添乗員、現地ガイド、ツーリストポリスが乗ってバハレイヤオアシスに向け出発です。6時間の砂漠の旅ですがトイレ休憩は一ヶ所だけだそうです。着くとオーナーのピーターさんと日本人の奥さんが出迎えてくれました。

午後からは待望の砂漠の旅サファリツアーです。私はサファリラリーをイメージしていたのでジープでなく、四駆のランクルで一寸がっかり、でも黒砂漠、白砂漠等の景観とスケールの大きさには大満足でした。砂漠に沈む夕日を見てホテルに帰る。

夜は民族料理のバドウィンディナーでした。このホテルの売りは温泉です。露天風呂を中心に部屋が取り囲むようにアレンジされています。

私一人しか入らなかったもので30分ばかり中で泳いでいました。



砂漠の奇岩



白砂漠の景観

今日はオアシス近くのミイラ博物館見学、沢

山のミイラが無造作に置かれています。又上から見ると何もないような所ですが、階段をおりて行くと中に立派な壁画の残っているお墓があちこちにあります。さすが歴史の宝庫エジプトです。ホテルで昼食をとりカイロに戻ります。明日はいよいよ最後のエジプト観光です。

今日は一寸変わったピラミッドを見に行きます。まず途中で計画が変更になったため傾斜角度が変わってしまった屈折ピラミッド、元々は赤っぽい石で作られた赤のピラミッド。メンフィスでは雪花石膏で作られた10mのスフィンクス、15mもあるラムセス2世の横たわった巨像等を見学。最後はサッカーラの屈折ピラミッドを見て帰路に着きました。

今回の旅行は(熟年の旅)と言うゆったりとした日程でしたので、殆ど疲れる事も無く又時差ボケも経験することなく快適に過ごすことが出来ました。ただ食事だけが私達日本人には合わなくてがっかりしました。

今まで耳抜きが出来ず飛行機の旅は敬遠していましたが、今回は一度も耳が痛くならず自信ができましたので今後行動範囲が広がりそうです。

思い出の黒部ダムから立山へ

JR1CDJ 大久保 嘉明(埼玉県)

■黒部ダムへ

扇沢からトロリーバスで[関電トンネル]を抜け、16分で黒部ダム駅に着いた。残念ながら依然として雨。トロリーの駅から展望台に登ると

眼下に懐かしの黒四ダムが見えた。「懐かしの」というのは40年前の1967年(昭和42年)仕事で一度来たことがあるからだが、観光では今回が初めて。水量調整のためか勢いよく放水して

いる(写真1)。



写真1

放水期間は6月26日から10月15日までとのことなので、観光シーズンは豪快な放水シーンを堪能できそうだ。

管理事務所の前には黒部ダム建設中の171柱の殉職者慰霊碑があり、当時の苦労を物語っている。ダムの上から管理事務所の方を見ると、事務所からダム湖に向かって斜めの階段が見える(写真2)。行き着くところは湖底の取水管だが、40年前の仕事の舞台がここだった。



写真2

■寒冷地潜水訓練

村山雅美隊長から「南極海での潜水調査に協力せよ」と指令されたのは、1967年11月25

日出発の第9次日本南極地域観測隊越冬隊員に決定し、寒冷順化の生理学的研究の準備に大忙しの最中だった。観測隊初の南極海潜水による海洋生物調査への協力依頼が舞い込み、生物担当の福井義夫隊員と潜水ペアを組むことになった。医学研究隊員としての諸準備の間を縫って、まず神田の潜水具店で深さ5mのタンクに潜って耳抜き等の基礎を教わり、9月末に真鶴ダイビングセンターで本格的なスキューバ(通称アクアラング)による潜水訓練を受けた。深度35mまで潜って水中カメラ(ニコノス)とムービーカメラでの撮影訓練も行った。

南極海の冷水対策として製作された分厚いネオプレン製ウェットスーツでどの程度の冷たさに耐えられるかテストのため、10月21日富士五湖の「本栖湖」に潜ったが、深さ18mでも13℃で期待はずれの水温。更なる冷水を求めて雪のちらつく黒四ダムに出かけたのは「砕氷艦ふじ」での晴海出港まで20日余りしかない11月2日だった。大町で一泊し、翌3日関西電力黒部ダム管理事務所に赴き、当日発電機整備中で取水を止めていることなど説明を受けた。インストラクターの鶴耀一郎氏と福井隊員、小生の3名は早速ウェットスーツに着替えた。分厚いスーツの浮力が大きいので鉛のウェイトは6~8kgを必要とした。圧搾空気ポンペを背負うと全装備35kg位になった。管理事務所から湖底に延びる斜めの階段(写真2)をつたってダム湖に降りた。両足に大きなフィン(水掻き)を着けているので、時には後ろ向きになったりして大変な思いで一段一段降りたのを思い出す。

小雪が舞っている天気なので深く潜るに従い暗くなり、数m先を進むインストラクターを見失わないように追従するのがやっと。湖底近くなると、立ったまま湖底に沈んだ針葉樹らしき

立ち木が濁った水中に屹立し、幽玄の世界と言おうか、不気味な雰囲気のを漂わせている。深さ25mで水温6℃、寒さは全く感じない。耐寒テストには物足りなかったが、30分ほどで潜水訓練を終えた。

勿論この時期、ダムからの放水はしていなかったが、発電用取水口近くでの潜水、しかも潜水能力未知数の素人2名を含む初対面のわれわれに、関西電力はよくぞ潜水許可を与えてくれたものだ。当時の南極観測事業への期待に、今更ながら身が引き締まる思いだ。貴重な寒冷地潜水訓練を終えて、寛大な許可に感謝しつつ黒部ダム管理事務所を後にした。

因みに一昨年(2006年)は、1956年11月8日第1次南極地域観測隊が「宗谷」で東京港を出港してから丁度50年になり、「ふしぎ大陸南極展2006」(7/15～9/3、国立科学博物館)、第1代目砕氷艦「宗谷」が繋留されている「船の科学館」での記念式典と講演(11/8)、その他いろいろな記念行事が催された。ところが残念なことに、記念式典3日前の11月5日、南極観測事業に多大の貢献をされた村山雅美氏は88歳で他界された。

■室堂へ

立山連峰の下を貫く立山トンネルをトローリーバスで抜けると室堂へ出る。今回はここ室堂で一泊の予定。予約した「雷鳥沢ヒュッテ」まで歩いて40分だ。

ミクリガ池を巡るとき、先ほどトンネルでくぐった立山(雄山)を遠望できた(写真3)。天気次第だが、明日はこの写真の右寄り低いところ(一の越)から左の急斜面をつたって小屋の見えるあの雄山に登りたい。だけど相当な角度だ。



写真3

地図に「有毒ガス注意」とある日本最高地の温泉源・地獄谷を、ヤバイ硫黄臭に悩まされながら足早に通過。「雷鳥沢ヒュッテ」は250名収容の大きな建物だが、一般のホテルと違って客室は単純な板の間、テレビも机もないシンプルな空間。食事付きだから野宿よりはましだ。当然のことながら共同トイレ・共同洗面所。

■雄山へ

翌8月13日6時の朝食を済ませ、6時20分頃出発。地獄谷を通らないリンドウ池沿いの迂回路を室堂ターミナル近くまで戻り、一の越へ向かった。室堂平はさすが観光地、通路は舗装されてロープが張られ、辺りが踏み荒らされないように整備されている。路傍に咲くイワカガミやミヤマキンバイ、花の散ったチングルマ等の草花を撮影するにも気を遣う。

2450mの室堂から、2705mの一の越まではだらだら坂で、途中4カ所くらい残った数10m幅の雪渓を滑らないように横断。一の越には立派なバイオトイレがあり、義務ではないが100円払って用を足した。

午前8時、さあこれから急な上り坂だ。30度位はありそう。登山客が多いので、落石を起さないように岩山を一步一步慎重に登る。雄山

山頂に着いたのは8時59分で登山地図どおり1時間かかった。証拠写真として、標高2991.6mの【一等三角点「立山」】のプレート撮影(写真4)。銀塩カメラと違ってデジカメは誠に便利。というのは撮影時刻が記録されるから、この旅行記を書くのに強力な相棒になる。



写真4

山小屋の前を通り、雄山神社へお参り。ここ

は三角点より少し高い3003mだが、岩の間にキキョウが咲いているのにはびっくりした。晴れて風もなく、360度の展望を満喫。

9時37分下山開始。ガレ場の急斜面は下りが怖い。登山者も多くなり、道を譲り合い、落石を起こさないよう慎重に脚を運ぶ。結局下りも一の越まで1時間位かかった。帰りは室堂ターミナル12時発の高原バスで立山道路を美女平へ向かった。このルートは冬は深い雪に埋もれ、春の開通時には10m以上の雪の壁『雪の大谷』となるそうだがこの時期その面影はない。6年前の2002年、盛岡でのMARS総会后JA7AOM及川忠人先生に案内された八幡平の大積雪壁を懐かしく思い出した。

参考文献

福井義夫「ラングホブデに潜る」:極地7(第4巻第1号)32-37、昭和43年6月

日本医師アマチュア無線連盟(MARS)の活動と入会方法について

MARSは、1977年(昭和52年)に創設されたドクターハムの親睦のための団体で、既に31年の歴史を持ち、次のような活動を行っている。

1) 総会と懇親会

毎年4月の第一土曜日の午後、全国各地で総会と懇親会を開催している。(今年は5月)

2) 毎水曜日の朝、3.568 MHz 付近(05:30~06:30)及び7.060MHz 付近(06:30~07:00)でロールコール(MD ネット)を行っている。

3) 日本医師アマチュア無線連盟会報(MARSニュース)を年2回発行している。

4) MARS 医学アワードおよび MARS 医学アワードIIの発行。

5) クラブ局(JM1ZZM)を設置している。

6) MARS のホームページを開設している。

URL は <http://www.jmars.jp/>

(談話室へのパスワードは mars)

事務局:

〒577-0058 東大阪市足代北1-16-20

東條医院内

日本医師アマチュア無線連盟

電話 06-6781-0076

F A X 06-6781-0078

E-mail jaef.tojo@nifty.com

会費 : 入会金 5,000 円、年会費 8,000 円

入会方法: 事務局にご連絡下されば、入会書類をお送りします。

会長 及川忠人(JA7AOM)

庶務とMARS ニュース

入・退会、コールサイン、住所の変更などの事務手続きはMARS事務局へ。

(事務局)

〒577-0058 東大阪市足代北1-16-20

東條医院内

日本医師アマチュア無線連盟

電話 06-6781-0076

F A X 06-6781-0078

E-mail jaef.tojo@nifty.com

MARS ニュースへの御寄稿は、

〒640-8331

和歌山市美園町5-1-8山榮ビル3階

眼科田中クリニック内 MARSニュース編集部

電話 073-427-3010

F A X 073-427-2135

E-mail marsnews@tanakaclinic.jp

まで、お送りください。

パソコン(またはワープロ)の場合、再入力の手間を省くため、フロッピーディスクもしくはCD-Rの郵送、またはE-mailでお送りください。特殊記号などが文字化けすることがあり、プリントアウトした原稿もファックスまたは郵送してください。

手書き原稿もOKですが、なるべく上記の方法でお願いします。

写真は紙焼きの郵送でもE-mailでも結構ですが、高画質画像をMOまたはCD-Rに保存してお送り下されると、さらにFBな仕上がりになります。なお、紙面の都合により、原稿を短縮させていただいたり、写真の選択やトリミングをさせていただきますので、ご了承ください。

会員異動

退会

JA3HQ 石井 勝先生

JO2XIU 加藤恒之先生

2007年5月ご逝去

JR1VUF/AH0BB 河野一男先生

2007年9月4日ご逝去

編集後記

今号はお届けが少し遅くなってしまったため、スギの花粉が少なくなりヒノキの花粉が猛威を振るってきました。学生時代には雪国でスキーバスを降り立つと花粉症とおさらばできていたことを思い出します。

今年の総会は北海道、皆様にお目にかかれるのがとても楽しみです。当地和歌山の桜も葉桜になりつつありますが、5月の北海道には桜が残っているでしょうか。

(DE JF3JON/exJR6PDF/exJH9BJW)

日本医師アマチュア無線連盟会報 (第66号)

発行：日本医師アマチュア無線連盟

発行日：平成20年4月10日

編集：田中憲児(JF3JON)

印刷：西岡総合印刷株式会社

Tel073-425-1341 Fax073-436-0855

URL <http://www.nishioka.co.jp/>

E-mail info@nishioka.co.jp